**【R4・４・21；第26回ネットワーク会議】**

**成年後見制度利用促進関係**

**「成年後見制度の利用の促進に関する法律」（平成28年4月公布、5月施行）**

**「第1期成年後見制度利用促進基本計画」（平成29年3月閣議決定）**

**（目的）**

**・「共生社会の実現」（法第1条）**

**判断能力が不十分で財産の管理や日常生活に支障のある者を社会全体で支**

**え合う。**

**・超高齢化が進行しているにも拘わらず利用者が少ない現状。**

**利用しにくい理由は何か　⇒　利用しやすい制度への転換を図る**

**１　第1期市町村基本計画**

**・中部地区1市4町ともパブリックコメントを経て令和3年3月に策定**

**（今後へ向けて）**

**・基本計画に盛り込んだ相談支援体制（中核機関、協議会、権利擁護のチー**

**ム支援）を具現化することによって、制度本来の理念（個人の尊厳と意思**

**決定支援等）に基づいた実効性のある相談支援活動や身上保護、財産管理**

**の後見活動の実践に繋げること。**

**別紙．参照**

1. **図２－１中核機関の役割と支援の流れ、各主体に期待される役割（フロー図）**
   * **権利擁護の視点からチームによる支援を必要とする事案**

**虐待や消費者被害、成年後見制度の利用が考えられる**

**＝　包括的・重層的支援の必要なケース**

**中核機関（市町担当課）へ**

**支援方針会議及びマッチング会議の招集**

**3つの段階**

**・支援方針検討会議**

**・後見候補者の推薦（マッチング会議）**

**・後見人等への支援　⇒　今後の取り組み課題**

1. **中核機関と地域連携ネットワークのイメージ図**

**（中核機関連絡調整会議）**

**・中核機関事務局**

**・中部地区（広域）**

**成年後見ネットワーク倉吉（中部成年後見支援センター）**

**・各市町**

**高齢・障がい担当部署**

**・令和4年度の事業計画の指し合わせ**

**・各市町への講師等の派遣**

1. **県補助事業の活用　　　　　＊権利擁護に成年後見制度を含む**

**・「高齢者の権利擁護相談支援事業」（実施要綱）**

**（事業内容）**

1. **市町村等（市町村及び地域包括支援センター）から受ける虐待及び権利擁護に関する電話相談や面接相談等への対応**
2. **市町村の高齢者虐待防止担当課が実施する高齢者の権利擁護に関するケース会議等への担当者の派遣（専門職チームの派遣）**

**→　事前に「相談票」の提出は必要**

1. **市町村または県が実施する職員等を対象とした高齢者の権利擁護に関する研修会等への講師派遣及び助言**

**・「障がい者虐待防止等に係る支援チーム設置事業」（実施要綱）**

**（事業内容）**

1. **センター等（市町村・県の障がい者虐待防止センター、又は障がい者相談支援センタ）から受ける虐待及び権利擁護に関する電話相談や面接相談等への対応**
2. **センター等が実施する障がい者虐待及び権利擁護等に関するケース会議等への担当者の派遣（専門職チームの派遣）**

**→　事前に「相談票」の提出が必要を**

1. **センター等が実施する職員等を対象とした障がい者の虐待及び権利擁護等に関する研修会等への講師派遣及び助言**

**２　国の第二期基本計画（R4～　5年間）**

1. **基本的な考え方及び目標**
   1. **「地域共生社会の実現」に向けた権利擁護支援の推進**

**促進法第１期計画から引き続いて**

**・「個別性」と「多様性が」認められる地域社会の構築（差別ではなく）**

* 1. **権利擁護支援の地域連携ネットワークの構築（包括的・重層的）**

**・重層的支援体制整備事業との関係**

**社会、経済状況の変化、特に家族機能（核家族化による子どもの養**

**育や親の介護機能の弱体化）の変化により、複数の問題を抱えた個人**

**や問題を抱える家族が複数人いる家庭が増加。**

**従来の単独の機関だけ、或いは縦割りの支援機関だけでの対応では解**

**決が困難**

**包括的（ひっくるめて支援する）**

**＊後見制度の利用を必要とする事案の多くは包括的・重層的な支援が必要**

**行政と民間の協働　⇒　地域連携ネットワーク・チームでの支援**

* 1. **意思決定支援・身上保護の重視　⇐　財産管理から**

**支援方針検討会議と受任者調整会議の重要性**

**（２）総合的かつ計画的に講ずべき施策**

**①　制度運用上の課題**

**・首長申立ての適切な実施（市町村の権限強化）**

**虐待や親族申立てが困難な事案への対応**

**親族申立てを期待して支援が中断したり、途絶えたりしないこと**

**・後見人の適切な選任と柔軟な交代**

**受任者のミスマッチの改善**

**本人や状況の変化によって交代を**

**→　受任形態の多様性の考慮と受け皿の拡大確保を**

**・適切な後見報酬の設定**

**現行は本人の保有財産に応じて家裁が決定する仕組み**

**本人をはじめ、誰もが納得できる報酬額（基準）へ**

**財産の乏しい人ほど使いにくい**

**②　制度改正を含めたこれからの課題**

**・必要性・補充性の原則の導入や三類型の一元化に向けての検討**

**問題が解決すれば後見を終了し、新たな問題がでれば再度申立てることに**

**なる。本人の判断能力の程度と問題に応じて代理権・取消権（同意権）が**

**付与されるので三類型に分ける必要がなくなる。**

**・成年後見制度以外の権利擁護支援策を総合的に充実**

**日援事業の利用、親族による金融機関からの本人財産の引き出し等**

**・成年後見制度利用支援事業の見直し**

**現状は、自治体によって給付基準や支給額にバラツキがある**

**参考資料　第二期成年後見制度利用促進基本計画　最終集とりまとめ概要**

**（厚労省　社会・援護局　地域福祉課成年後見制度利用促進室）**

**厚労省HP**

**【ミットレーベン：松村】**